

# インナー型子育て支援施設の有効性

## — 利用者に対する調査から —

木村 たか子

### 1、はじめに

先に群馬県前橋市において、前橋市私立（社会福祉法人立）保育園長連絡協議会がNPO法人「前橋保育ネットワーク」を立ち上げ活動をしている報告を紹介した<sup>1</sup>。その主たる活動の一つが前橋市中心街再開発事業の「前橋プラザ元気21」（以前デパートとして利用されていたビル）内の2階スペースに平成19年12月に開設されたインナープレイ型子育て支援施設「こどもプラザ」の企画、運営である。

この施設はつどいの広場型の子育て支援施設で、「親子で遊びを楽しみ、ほかの親子と交流をする場の提供と支援を行う」というコンセプトで市に提案し、採択されたものである。子どもだけの入場は認めず、保護者と子どもが一緒に入場し、自由に遊ぶ場である。3歳以上小学校4年生までを対象にした「室内プレイルーム」と、3歳未満の子どもを対象にしたプレイルーム兼子育て支援室「親子元気ルーム」から構成されている。「室内プレイルーム」には、動の遊びができるプレイジムコーナー、ままごとや買い物等のごっこ遊びや数や文字・指先を使う遊び等の静の遊びコーナー、兄弟の赤ちゃんが遊べるベビーコーナーがそろっている。「親子元気ルーム」も3歳未満児に適した動と静の遊びができるようになっている。同時に「親子元気ルーム」では基本的には週4回、親子ふれあい遊び、絵本や紙芝居の読み聞かせ、誕生会、発育測定、簡単な製作等を1日に午前午後の2回行い保護者同士の交流や遊びの提供という支援を行っている。

「こどもプラザ」はその後年間平均約20万人の親子が利用し、平成24年12月に5周年を迎えた。前橋市内の子育て中の保護者特に母親に支持を得たと思われるが、5周年を迎え、利用者の施設に対する意識、子育てに対する気持ちを調査しこの施設の有効性と今後の課題を明らかにしたいと考えた。

以下「室内プレイルーム」を「プレイ」と、「親子元気ルーム」を「親子」

<sup>1</sup> 保育所の社会資源を生かした社会貢献 木村たか子 関東短期大学紀要 52集 121-131 2008-03

と表記する。

## 2. 調査の概要

### (1) 調査期間

「プレイ」

平成 25 年 3 月 14 日から平成 25 年 3 月 28 日まで

平成 25 年 4 月 9 日から平成 25 年 4 月 26 日まで

平成 25 年 3 月 28 日から平成 25 年 4 月 9 日までは前橋市内の幼稚園小学校の春休みにあたり、混雑したため調査を行わなかった。

「親子」

平成 25 年 3 月 11 日から平成 25 年 3 月 22 日まで

平成 25 年 3 月 29 日

平成 25 年 4 月 12 日から平成 25 年 4 月 26 日まで

平成 25 年 3 月 23 日から平成 25 年 3 月 28 日までと、平成 25 年 3 月 30 日から平成 25 年 4 月 11 日までは春休み等に係る混雑のために調査を行わなかった。

### (2) 調査方法

スタッフが任意の利用者にアンケート調査を依頼し承諾した方にのみ用紙を渡し、場内で自由に記入してもらい出入り口脇カウンターにある箱に投函していただいた。調査依頼時に承諾されない方には用紙を配布しなかった。結果として回収率は 100%となった。

### (3) 調査人数

「プレイ」の利用者 107 名、「親子」の利用者 110 名、合計 217 名である。

### (4) 調査内容

図-1 の内容で行った。基本的には「プレイ」「親子」共に同様な内容とした。質問 9 については子どもの年齢を考慮して内容を変更した。また、「親子」のアンケートにはスキンシップあそび等の行事についての質問を 3 問（質問 12・13・14）余分に加えた。「プレイ」の質問 12 から質問 24 まで、「親子」の質問 15 から質問 27 は育児感情尺度<sup>2</sup>の質問を使用した。

---

<sup>2</sup> 心理測定尺度集 VI 堀洋道監修 サイエンス社 2012 内 育児感情尺度 荒牧美佐子他 2008

図—1

**元気21アンケート（ブレイルーム・親子元気ルーム）（保護者向け）**

平成 年 月 日 午前 午後

ブレイルームと親子元気ルームは前橋市の社会福祉法人立の保育園が NPO 法人を立ち上げて前橋市の子育て支援を目的にスタートした、全国的にも数少ない施設です。このような試みが子育て中の保護者の方々に受け入れられ、役立っているのかを調査させていただきたいと存じます。大変お手数かと思いますが、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

関東短期大学 子ども学科教授 木村 たか子

**1. あなた自身についてお伺いします**

・あなたの年齢はおいくつですか  
 ①20 歳未満      ②20 代      ③30 代      ④40 代以上

・あなたの性別は      ①男性      ②女性

・一緒にこられた子どもさんとあなたの関係はどのようなようですか  
 ① 母      ② 父      ③ 祖母      ④ 祖父      ⑤ その他 (      )

・一緒にこられた子どもさんの人数は (      ) 人  
 年齢 (      ) 歳      (      ) 歳      (      ) 歳      (      ) 歳

・子どもさん同士の関係はどのようなようですか  
 ① 兄弟      ② 友達      ③ いとこ      ④ その他

・こちらに来られた回数について  
 ① はじめてきた  
 ② 何回か来た ( 2～5 回      6～10 回      11 回以上)

何回か来た方にお伺いします。週にどの位の頻度で来ますか  
 ① ほぼ毎日      ② 週に3～4回      ③ 週に1～2回  
 ④ 毎週は来ない 月に2～3回      月に1回      その他 (      )

・あなたのお住まいはどこですか  
 ① 前橋市内      ② 前橋以外  
 前橋以外の方の住所をお書き下さい (市町村までで結構です) \_\_\_\_\_

3. 親子元気ルームや育児についての気持ちをお聞きます。以下のように感じることがあるかどうかあてはまる回答 1 つに○をつけてください。

		まった くない	あまり ない	時々あ る	よくあ る
1	親子元気ルームに来るとほっとする				
2	親子元気ルームでは子どもが良く遊ぶ				
3	親子元気ルームで自分の友達ができた				
4	親子元気ルームで友達と持ち合わせをする				
5	自分の子どもが他児に危害(例:はたいたりする)を与えるのが気になる				
6	自分の子どもが他児から危害(例:はたいたりする)を受けるのが気になる				
7	元気21には育児相談があることを知っている				
8	育児について悩んだ時は育児相談を受けたいと思う				
9	親子元気ルームで子どもが他児とよく遊ぶ				
10	スタッフの子どもへの対応が参考になる				
11	スタッフに子どもとの関わり方を教えてほしいと思う				
12	親子元気ルームでは誕生会、製作、スキミング遊びに参加したことがある				
13	このような行事は楽しい				
14	このような行事は役に立つ				
15	毎日、育児の繰り返しばかりで、社会との絆が切れてしまうように感じる				
16	自分一人だけで子育てしているような気がする				
17	子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする				
18	子どもを育てるために我慢ばかりしている				
19	子どもが汚したり、散らかしたりするのでイヤになる				
20	自分の子どもでも、かわいくないと感じることもある				
21	子どもが自分のいうことを聞かないので、イライラする				
22	子どもがわずらわしくてイライラする				
23	子どものことを考えるのが面倒になる				
24	育児のことでどうしたらよいかわからなくなる				
25	子どもをうまく育てていけるか不安になる				
26	自分の育て方でよいのかどうか不安になる				
27	子どもにうまく対応できていないと感じることがある				

親子元気ルームについての感想等をご自由にお書きください

▼ ありがとうございます

2. プレイルームや育児についての気持ちをお聞きます。以下のように感じるかどうかあてはまる回答1つに○をつけてください。

		まった くない	あまり ない	時々あ る	よくあ る
1	プレイルームに来るとほっとする				
2	プレイルームでは子どもが良く遊ぶ				
3	プレイルームで自分の友達ができる				
4	プレイルームで自分の友達と待ち合わせをする				
5	自分の子どもが他児に危害(例:はたいたりする)をもえるのが気になる				
6	自分の子どもが他児から危害(例:はたいたりする)を受けるのが気になる				
7	元気21には育児相談があることを知っている				
8	育児について悩んだ時は育児相談を受けたいと思う				
9	プレイルームで子どもに友達ができる				
10	スタッフの子どもへの対応が参考になる				
11	スタッフに子どもとの関わり方を教えてほしいと思う				
12	毎日、育児の繰り返しばかりで、社会との律が切れてしまうように感じる				
13	自分一人だけで子育てしているような気がする				
14	子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする				
15	子どもを育てるために我慢ばかりしている				
16	子どもが汚したり、散らかしたりするのでイヤになる				
17	自分の子どもでも、かわいくないと感じることもある				
18	子どもが自分のいうことを聞かないので、イライラする				
19	子どもがわずらわしくてイライラする				
20	子どものことを考えるのが面倒になる				
21	育児のことでどうしたらよいかわからなくなる				
22	子どもをうまく育てていけるか不安になる				
23	自分の育て方でよいのかどうか不安になる				
24	子どもにうまく対応できていないと感じることがある				

プレイルームについての感想等をご自由にお書きください

ありがとうございました

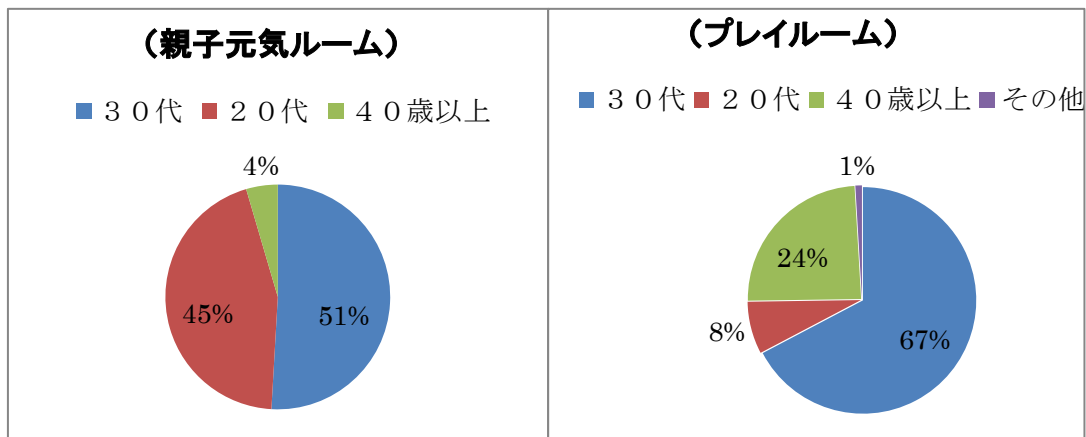
### 3. 倫理的配慮

調査票に調査結果は研究以外の目的で使用しない事、回答者の情報が外部に漏れる事が無い事を明記した用紙を添付し協力を依頼した。

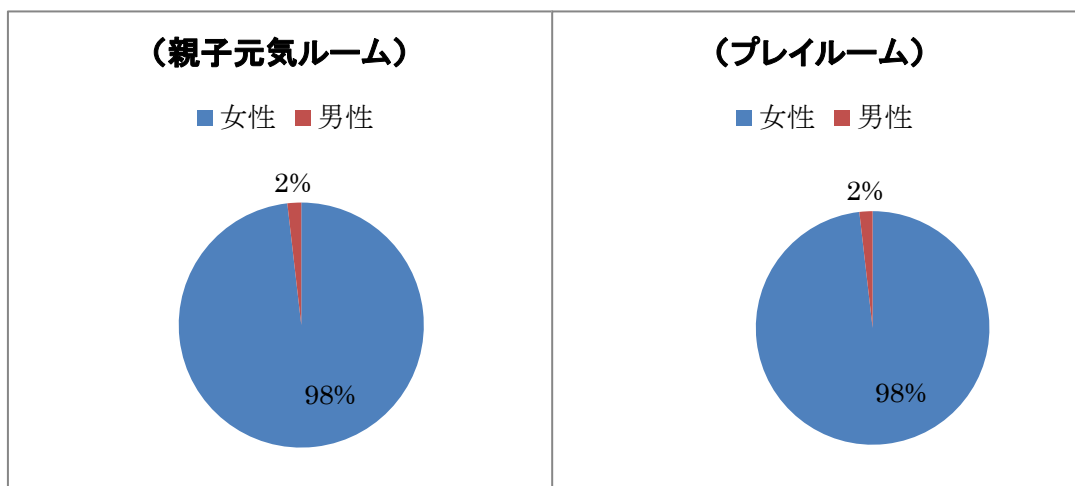
## 4. 結果と分析

## (1) アンケート回答者の属性

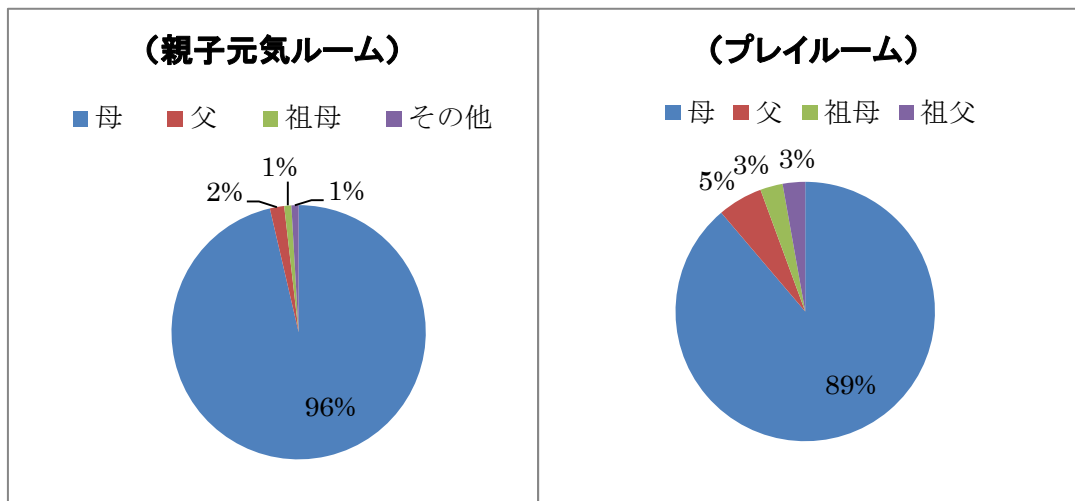
## ①年齢



## ②性別

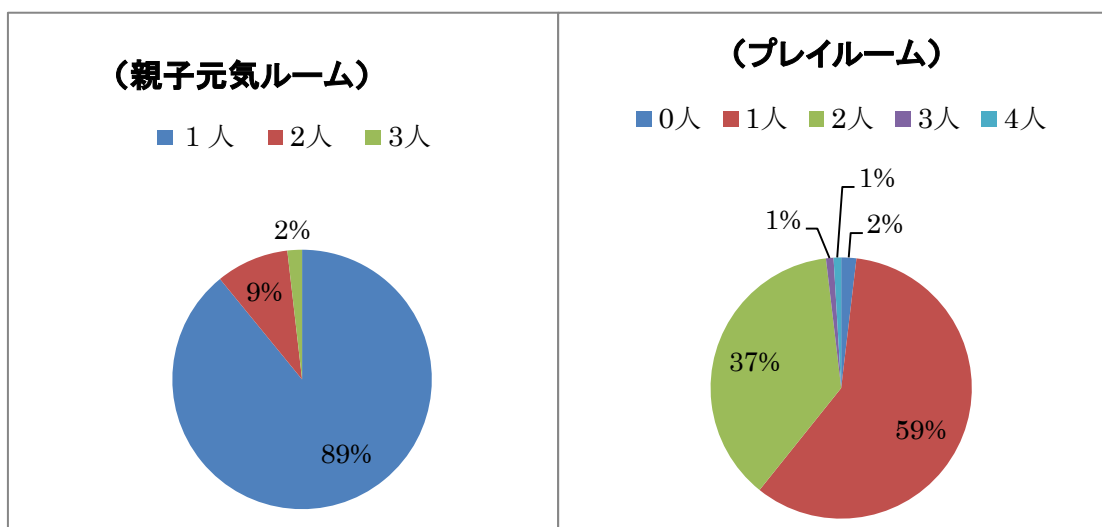


## ③子どもとの関係

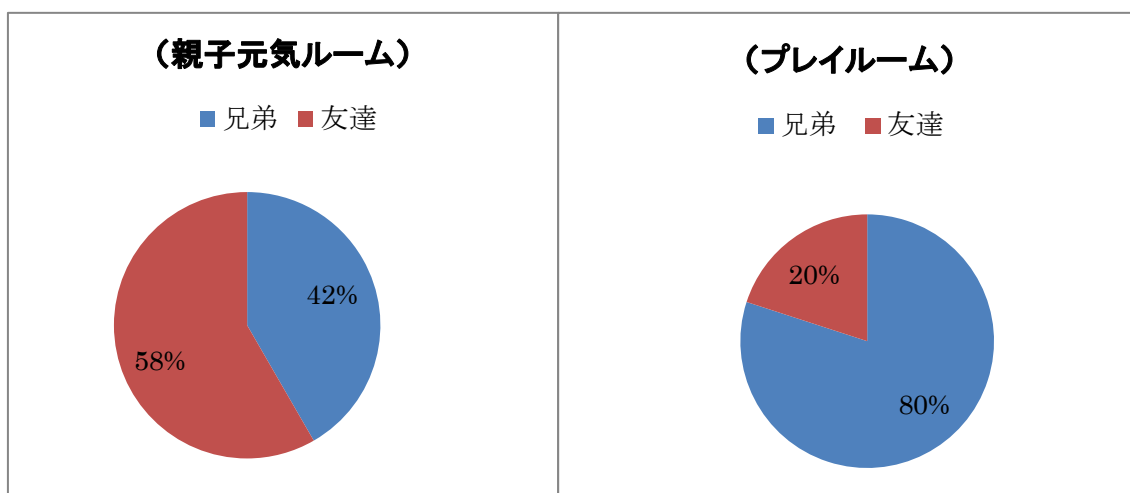


「親子」の利用者の96%が20代30代の母親であった。「プレイ」では20代30代が75%であり24%が40歳以上であった。89%が母親であることを考えると14%が40代の母親であると考えられる。「親子」では基本的には3歳未満の小さい子どもを対象にしているため、母親の年齢が若干若くなっていると思われる。この時期の子ども達は祖父母や父親より母親の同伴で来園していることが分かる。あくまで記入者の属性であり、父や祖父母同伴ということも考えられる。

#### ④同伴した子どもの人数

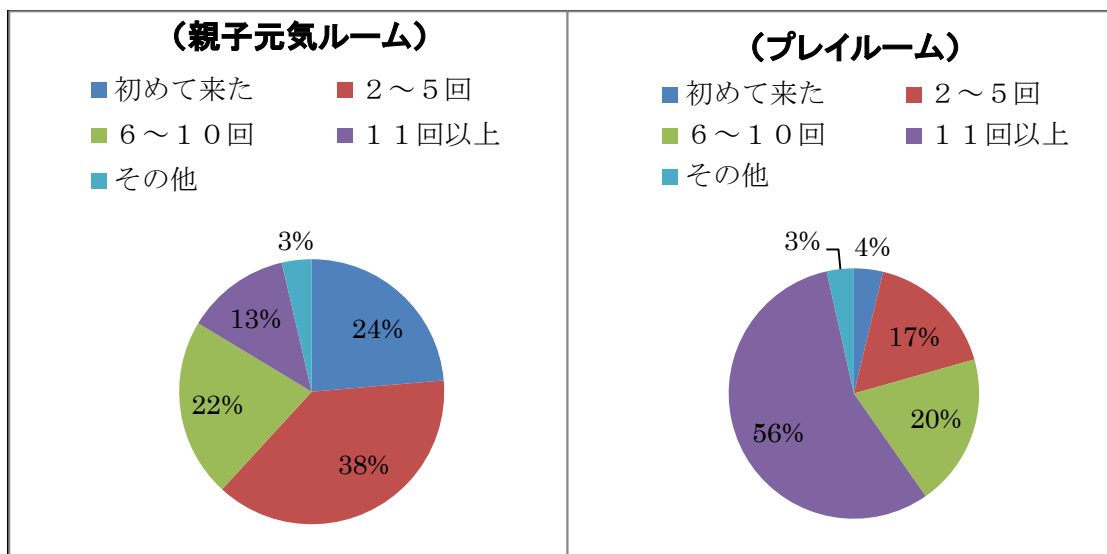


#### ⑤子ども同士の関係

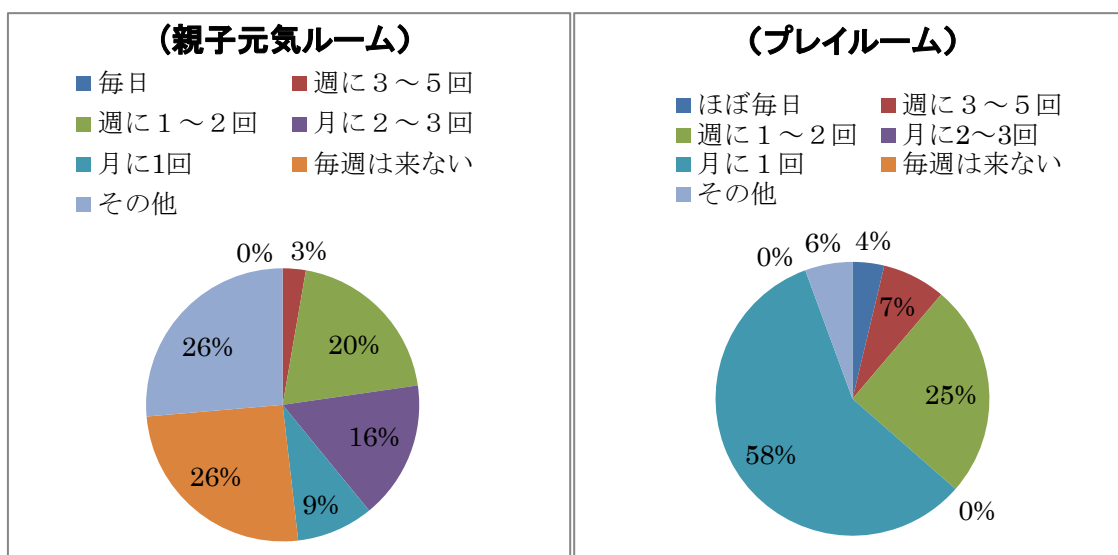


「親子」では90%近くが子ども一人を連れての来場であるが、「プレイ」では37%が子ども2人を連れての来場である。保護者一人が3人4人を連れての来場は2%と少なく安全が保たれていることにもつながっているように思われる。(5年間大きなけがや事故はない。)その中で兄弟が80%友達が20%であった。

## ⑥ 来園回数



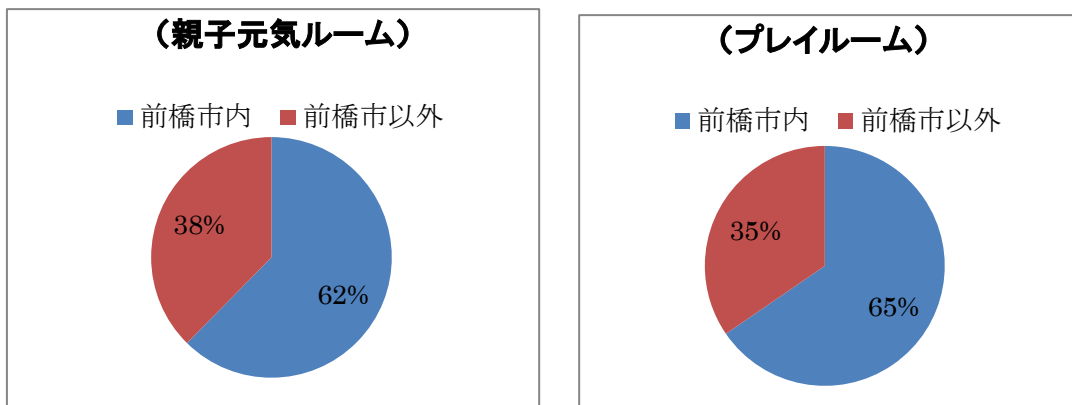
[来園頻度（2回以上の来園者のうち）]



「親子」では初めてきた人が 24%に対して、「プレイ」では 4%に過ぎない。「親子」「プレイ」共に何回も来ているリピーターが多かった。特に「プレイ」では 11 回以上着ている人が 56%であった。合わせて、来園頻度のアンケートでは「プレイ」では 58%が月 2～3 回来ていると答えている。「プレイ」は親子の生活の中にここで遊ぶということが定着しているのではないかと考えられる。「親子」では半数近く（48%）が毎週または毎月何回か来園している。子どもが小さいので生活リズムが確定していない分来園頻度が少ないのかもしれない。また、子どもが生まれてごく小さいうちに「親子」にデビューし、その後年齢とともに「プレイ」に移行して利用している様子が見られる。



## ⑦居住地

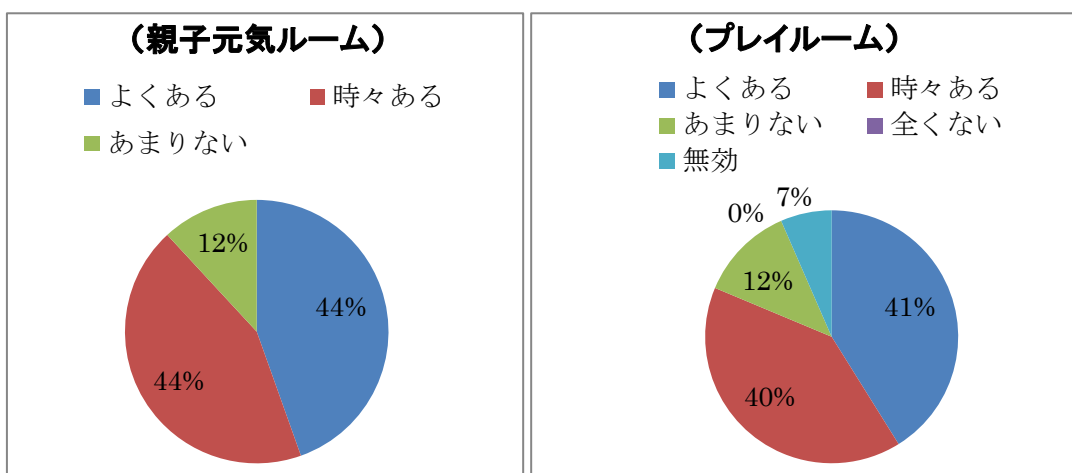


「親子」「プレイ」共に三分の二の利用者が前橋市内の居住者であり、その他は伊勢崎、高崎、渋川等の近隣市町村に居住していた。中には東京に居住しているがお産で帰省中等の利用者もいた。

## (2) アンケートの内容

23 の質問は「親子」「プレイ」共に同じ内容である。「親子」質問⑮から質問⑳、「プレイ」質問⑫から質問⑭は利用者の子育てに対する負担感や不安感を調べるため心理測定尺度集VI<sup>1</sup>の育児感情尺度の一部を使用した。質問9は子どもの年齢に合わせて質問の内容を変更した。3問（「親子」質問12, 13, 14）は「親子」のイベントについての質問であり、「親子」のみの質問である。このために、アンケート用紙の番号を表グラフ内の施設名前に記入したので、途中から質問についての番号が「親子」と「プレイ」で違う表記にした。(図-1)

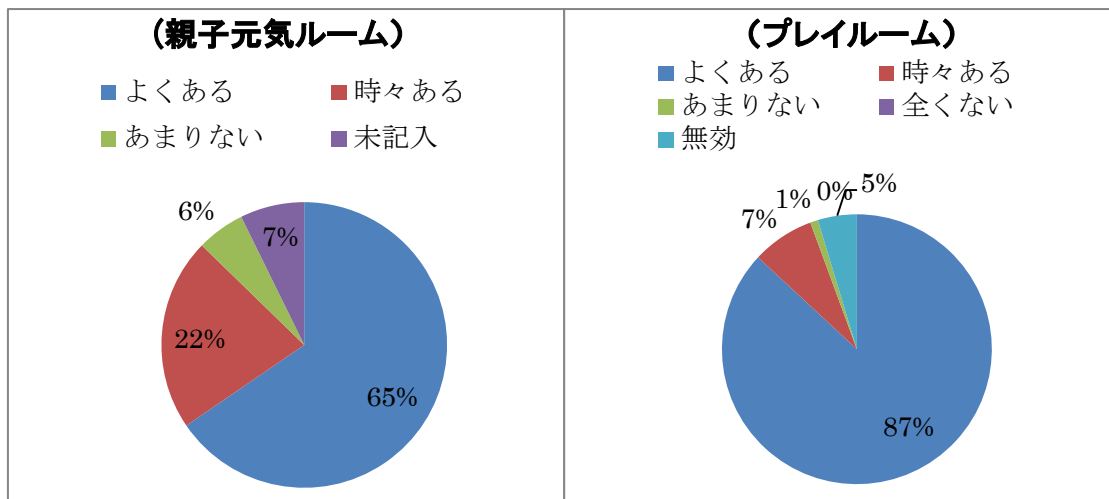
## ①この施設に来るとほっとする



「親子」「プレイ」両方の施設で90%近い利用者が来場することでほっとして

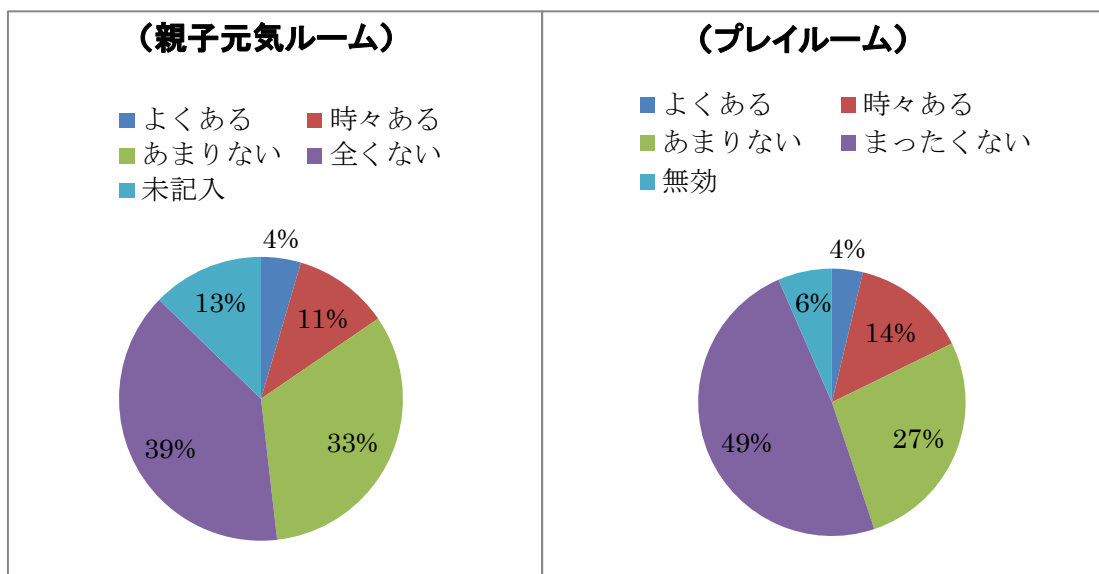
いた。この時点では理由はわからないが子育て支援施設として役立っていることが察せられる

②この施設では子どもが良く遊ぶ

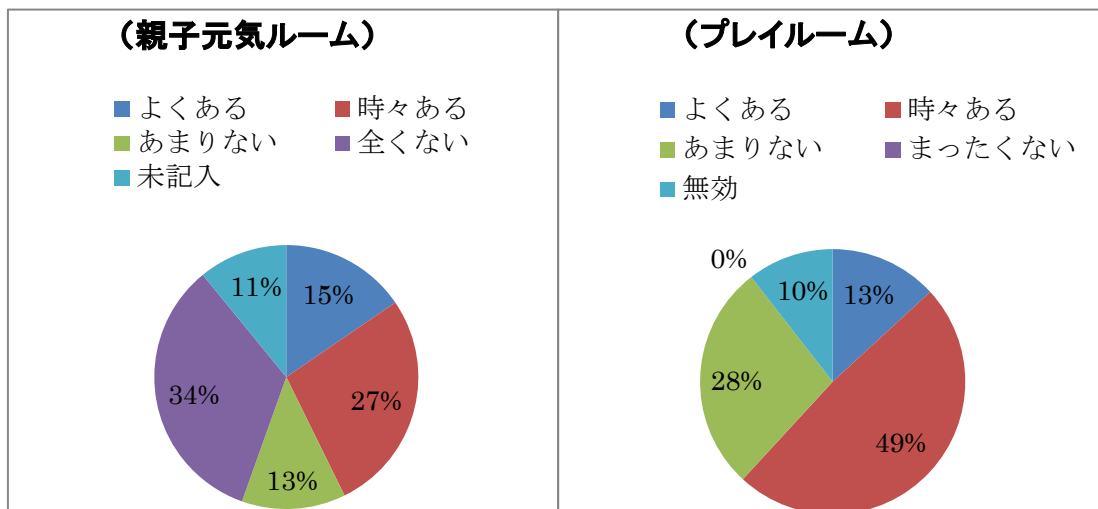


「親子」では 87%、「プレイ」では 94%の保護者が子どもが良く遊ぶと感じていた。子どもの遊びを充実させる施設として役割を果たしていると考えられる。

③この施設で自分の友達ができた

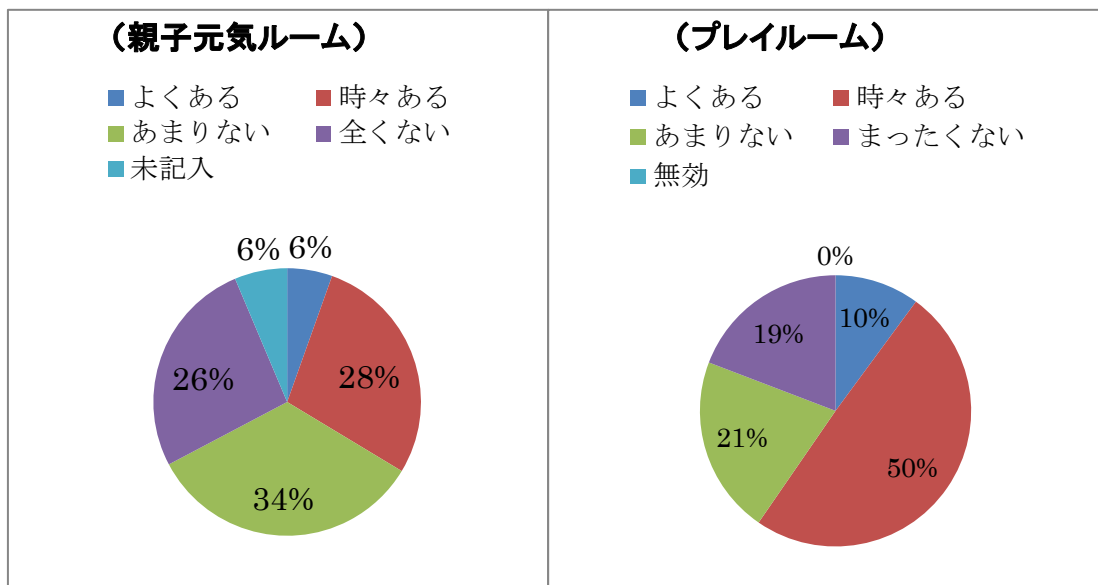


## ④この施設で自分の友達と待ち合わせをする

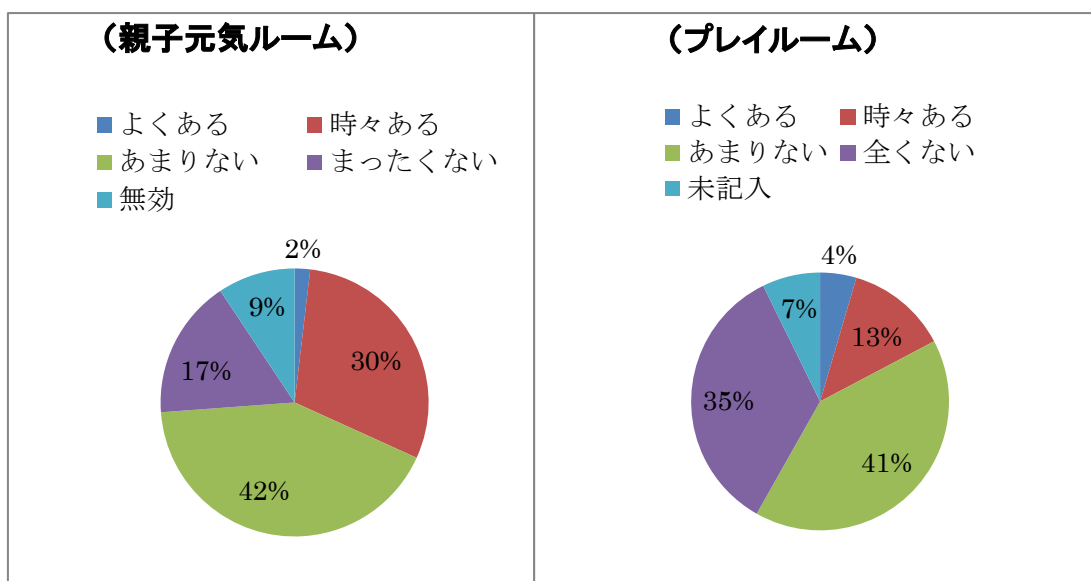


この施設で友達ができただ人は「プレイ」で18%「親子」で15%である。この数字をどのように解釈するかは非常に微妙であると考えられる。なかなか保護者の友達作りにはつながっていないと考えるのか、15%前後でも友達ができただということに意味があると考えられるかは難しいと思う。この施設が母親の友達作りの少なからずきっかけになっているとも考えられるので、この数字をどのようにしてあげていくかは今後の課題になると考える。

## ⑤自分の子どもが他児に危害を与えるのが気になる

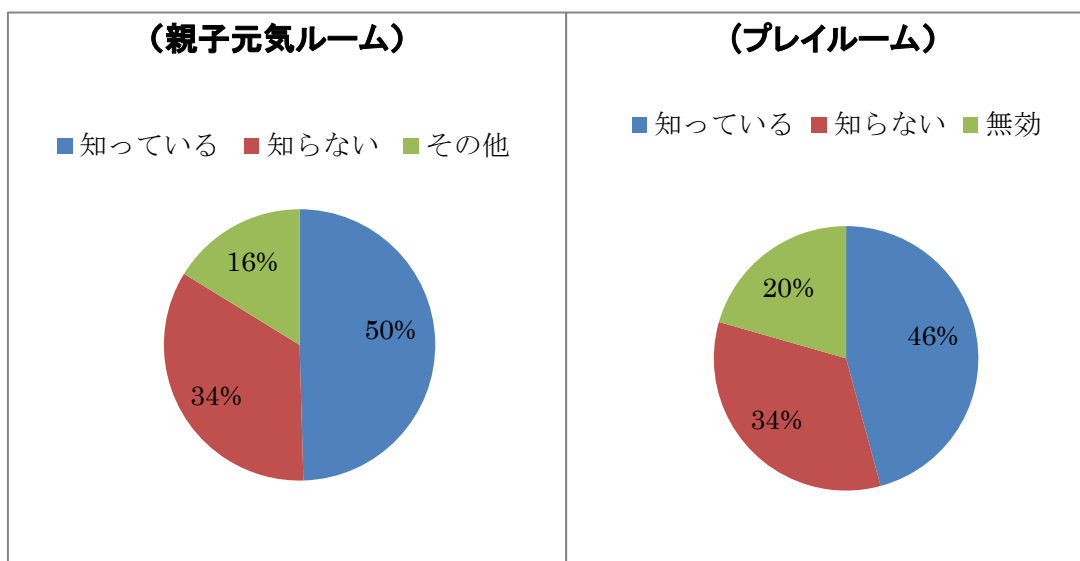


## ⑥自分の子どもが他児から危害を受けるのが気になる

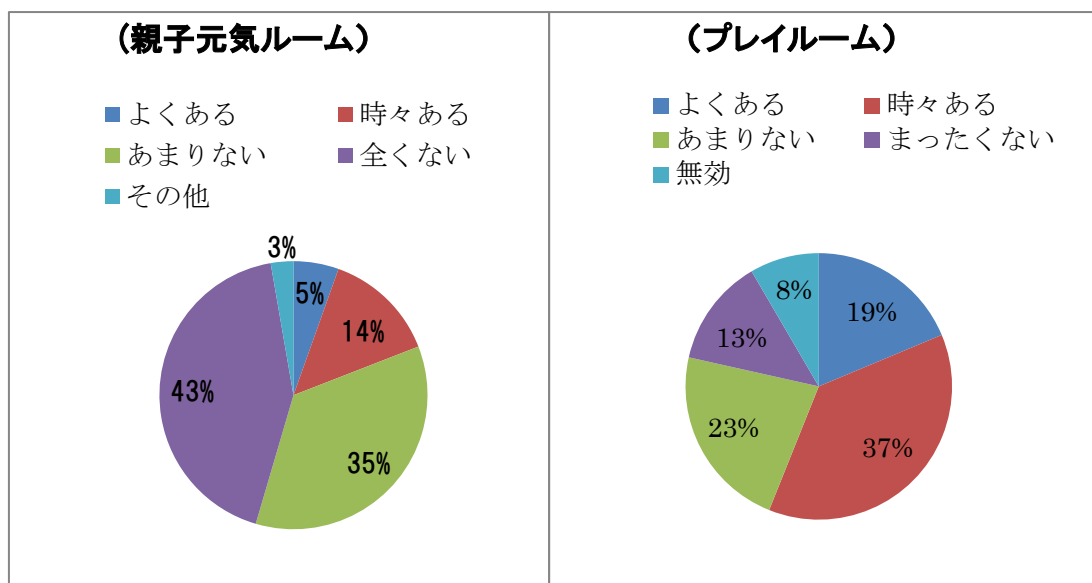


自分の子どもが他児に危害を与えることを気にしている利用者は「親子」では 35%であり、「プレイ」では 60%であった。子どもの成長とともに他児と関わるが増え、気にしていくのではないかと考えられる。反対に気にしていない利用者は「親子」では 59%、「プレイ」では 40%であった。一方他児から自分の子どもが危害を受けることを気にしている親は「プレイ」では 17%、「親子」では 32%であった。他児に危害を与えることは気になるが他児から危害を与えられることには比較的寛容である傾向がうかがわれた。

## ⑦元気 21 には育児相談があることを知っている

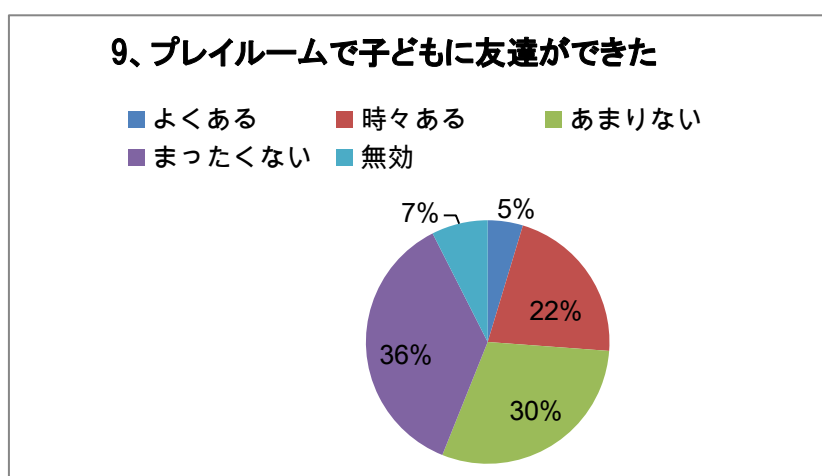


## ⑧ 育児について悩んだときは育児相談を受けたいと思う



「プレイ」50%、「親子」46%の利用者が育児相談ができることを知っていた。広報の工夫等認知してもらおうような工夫が必要であろう。「親子」の78%、「プレイ」の36%は育児について悩んでいないか、他の解決方法を持っているようだ。「プレイ」では半数以上の利用者が悩んだり、育児相談を受けたいと考えていた。こどもが大きくなるほうが悩みはおおくなる傾向がある。私はこの施設で週1回育児相談を行っているが、実際には育児相談は「親子」の利用者が圧倒的に多い。

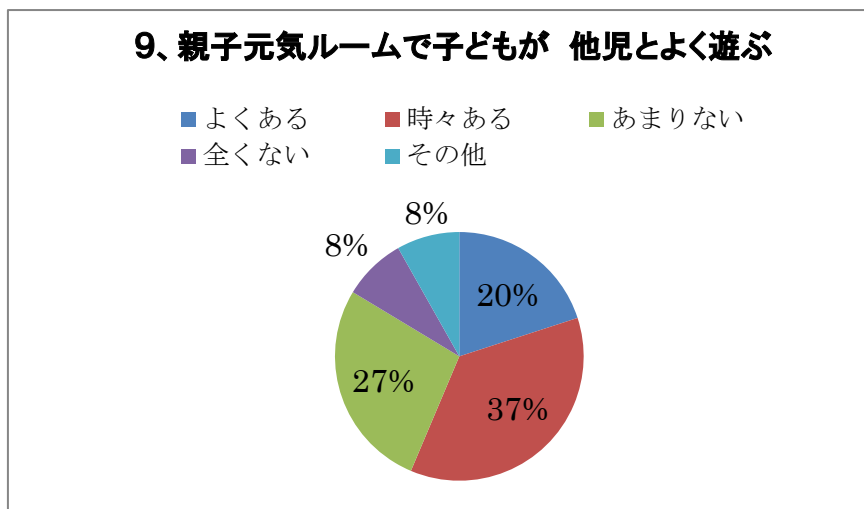
## ⑨-A この施設で子どもに友達ができた (プレイルームのみの質問)



27%の子どもが「プレイ」で知らない子どもと友達になり遊んでいた。この

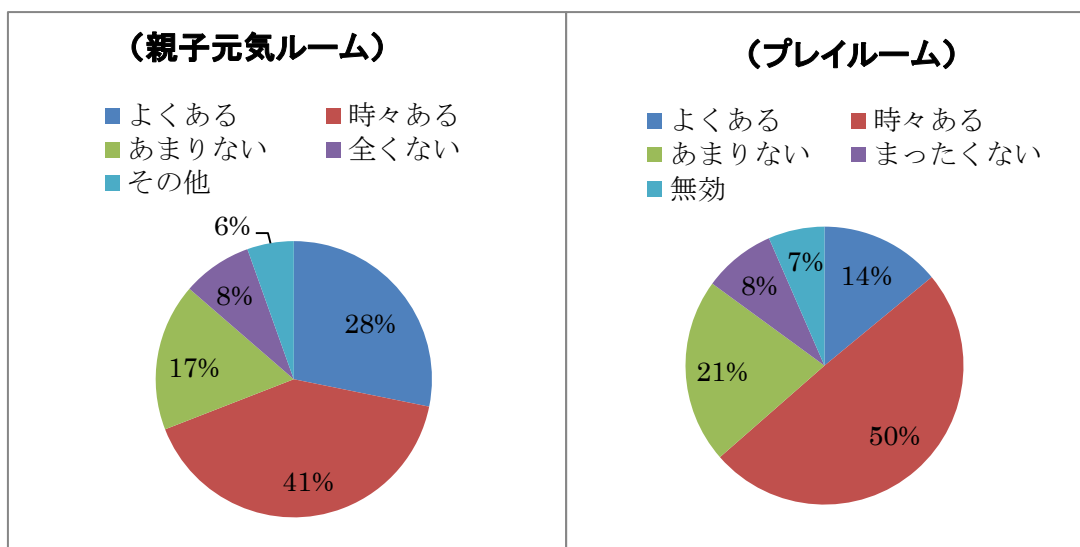
友達が施設を離れても関わりを持っているのか施設にいるときだけなのか不明であるが子どもにとっても新しい世界の広がりを提供していると考えられる。

⑨ーB 親子元気ルームでは子どもが他児とよく遊ぶ（「親子」のみの質問）



3歳未満児についても57%の利用者が一人ではなく他児とよく遊んでいると認識していた。兄弟数が少ない現在、このような施設は子どもにとっても他者と関わる良い機会になっているのではないかと考えられる。

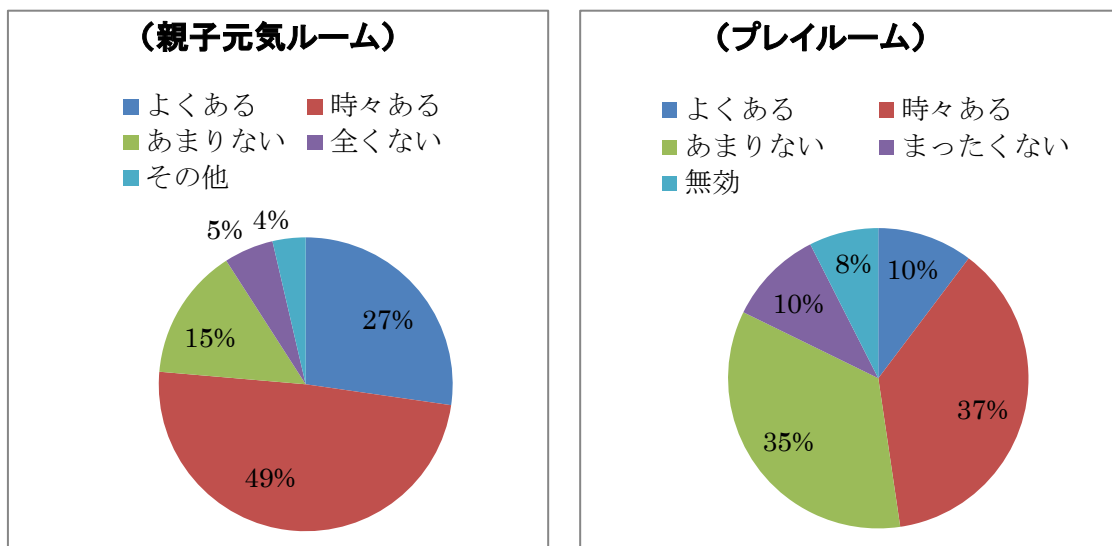
⑩ スタッフの子どもへの対応が参考になる



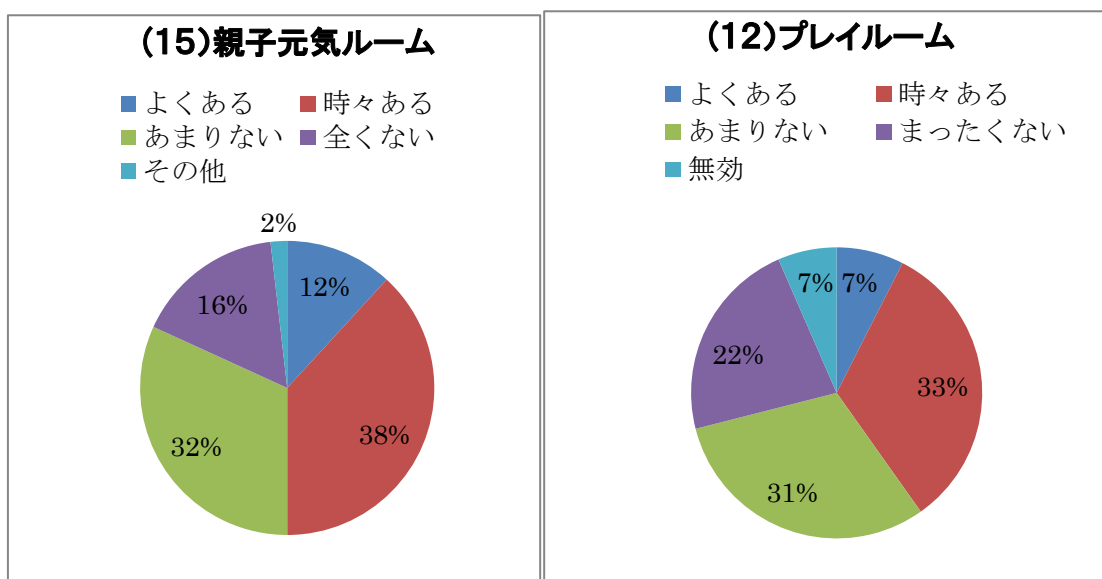
「プレイ」「親子」共に子どもを預かって保育はしない。基本的には利用者が子どもの安全に配慮してもらうようお願いをしている。スタッフは各所に安全管理や保護者がトイレ等子どもを見られない時のために配置されている。その他「親子」ではスキンシップ遊び等の行事はスタッフが主導的な役割を務めて

いる。「親子」では69%、「プレイ」では64%の利用者がスタッフの子どもに対する関わり方をよく見て参考になると感じていた。この施設ではスタッフは保育士資格または幼稚園教諭資格を持っていることが条件となっている。現に、子どもが約束を守らず遊んでいたり、保護者のいうことを聞かずにぐずったりすると上手に介入して子どもの気持ちを切り替えたり、注意したりしている。目立たないが保育者の専門性を生かしているのではないかと思われる。加えて、「親子」の76%、「プレイ」の47%の利用者が子どもとの関わり方を教えてほしいと感じている。

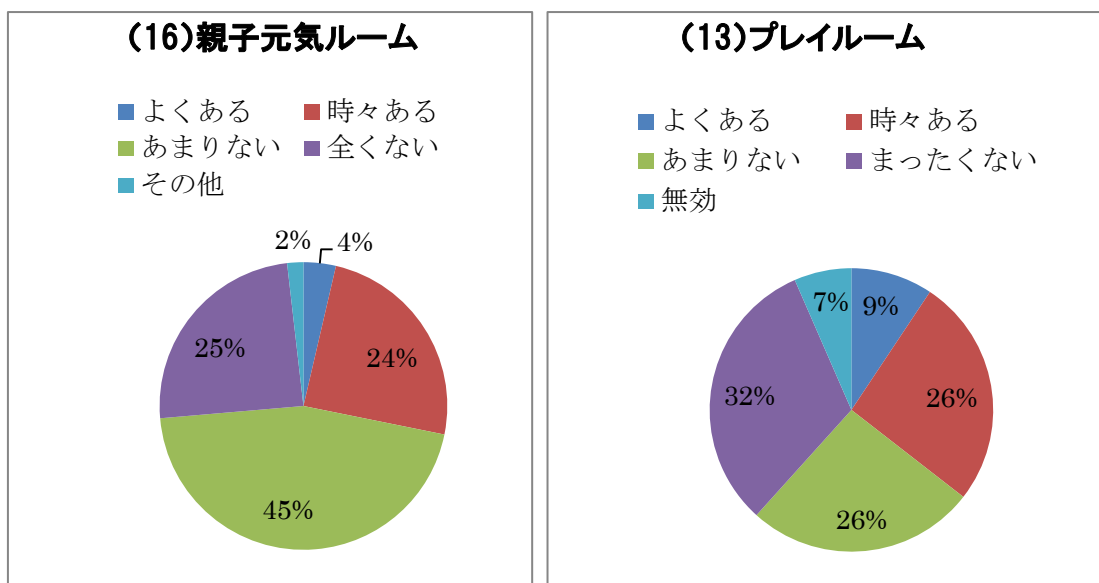
⑪ スタッフに子どもとの関わり方を教えてほしいと思う



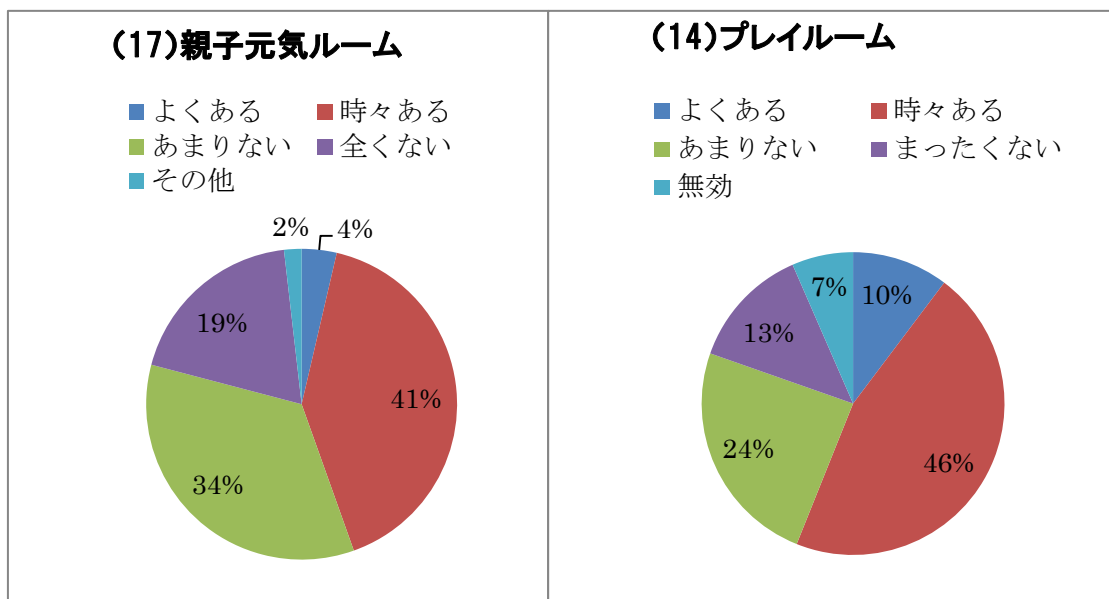
⑫ 毎日、育児の繰り返しばかりで、社会との絆が切れてしまうように感じる



## ⑬ 自分一人だけで子育てをしているような気がする

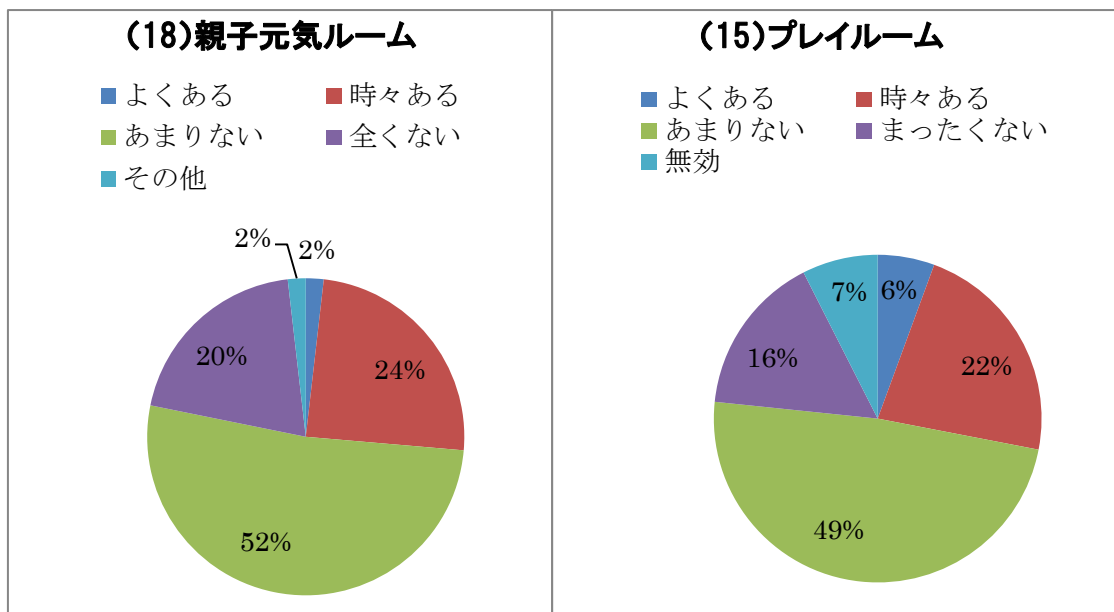


## ⑭ 子どもに時間を取られて、自分のやりたいことができず、イライラする



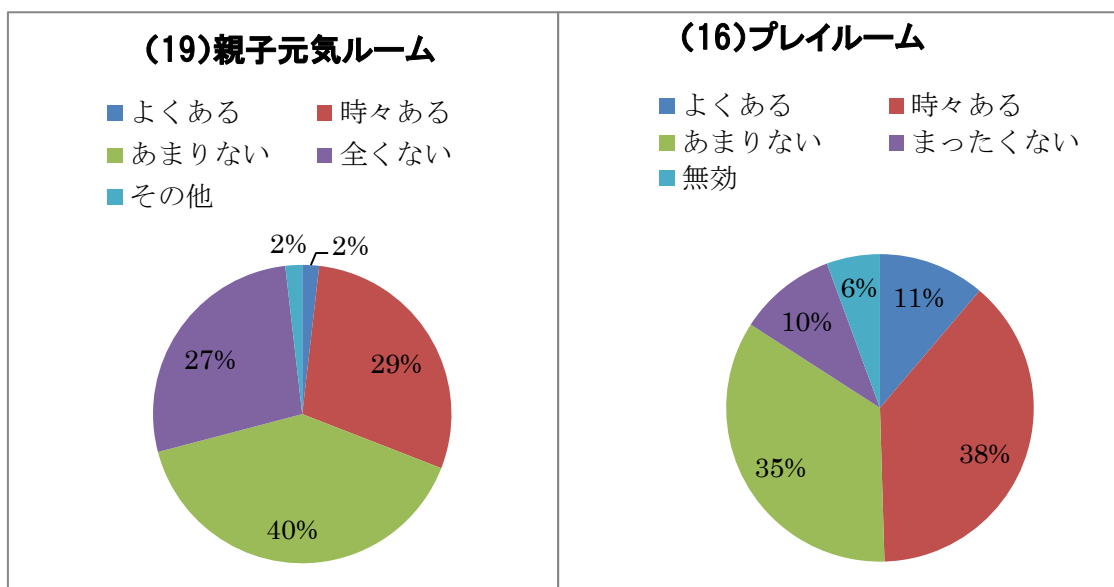


## ⑮子どもを育てるために我慢ばかりしている

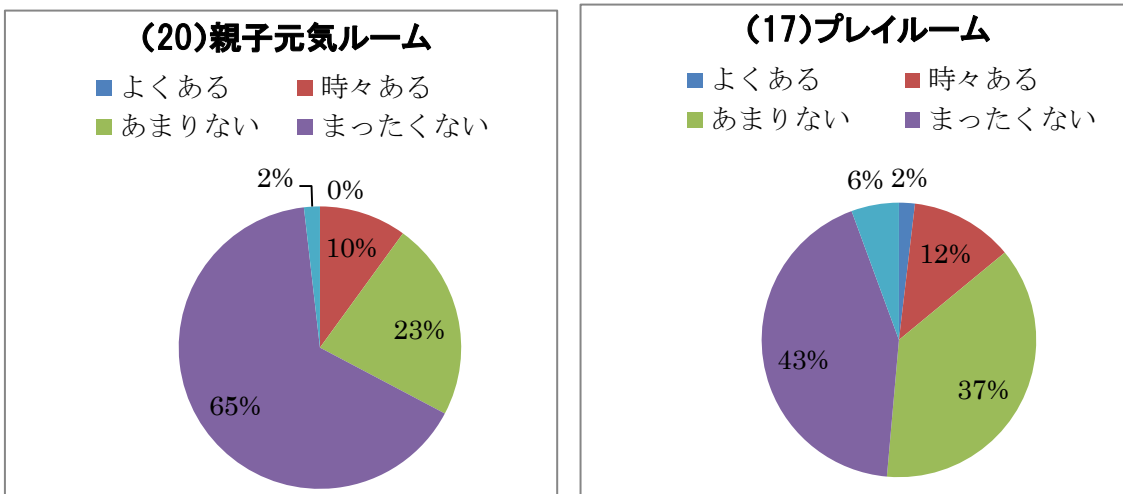


質問⑫から⑮までは、育児感情尺度<sup>2</sup>の因子「負担感」の下位因子【育児への束縛による負担感】についての質問である。質問⑫については、「そう思う」「時々そう思う」と答えた利用者が「親子」が50%「プレイ」では40%であった。質問⑬では、「親子」では28%「プレイ」では35%、以下質問⑭は「親子」45%「プレイ」56%、質問⑮は「親子」26%「プレイ」28%であった。質問⑫と⑭については半数近くの利用者が育児負担感を感じていた。

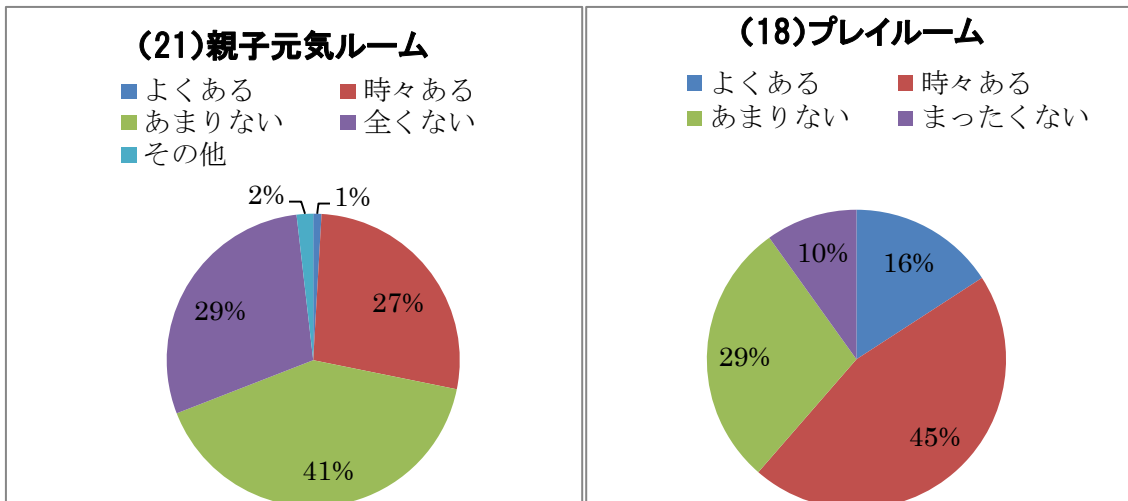
## ⑯子どもが汚したり、散らかしたりするのでイヤになる



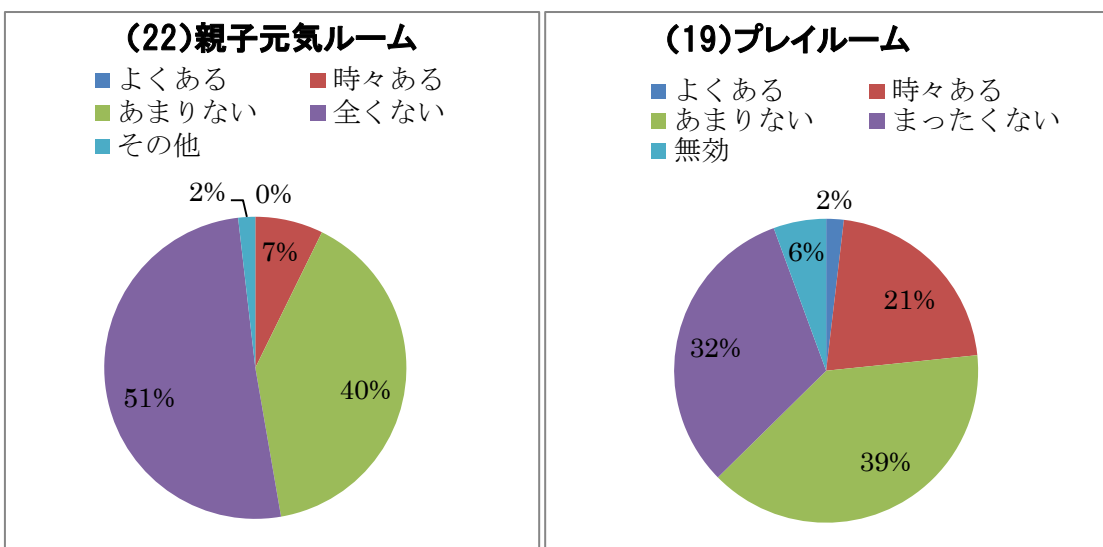
⑰自分の子どもでも、かわいくないと感じることもある



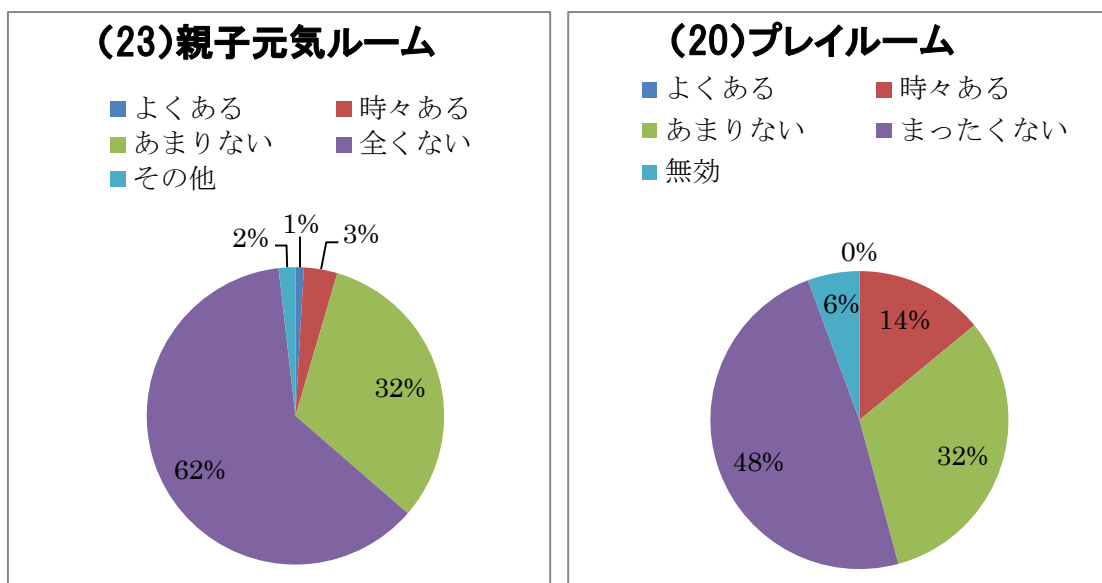
⑱子どもが自分の言うことを聞かないので、イライラする



⑲こどもがわずらわしくてイライラする

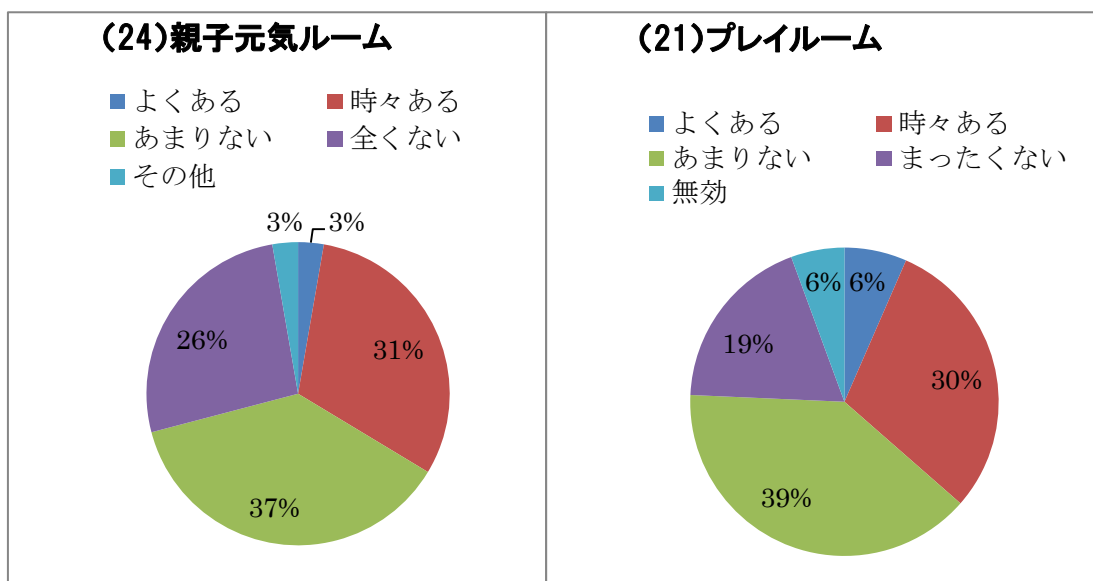


## ⑳子どものことを考えるのが面倒になる

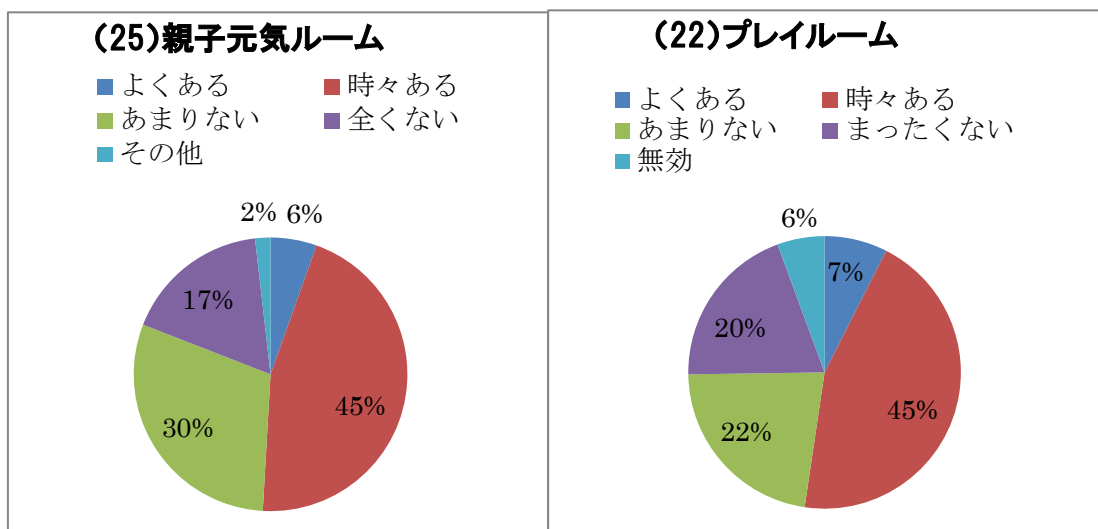


質問⑯から⑳までは育児感情尺度<sup>2</sup>における因子である育児の「負担感」の低位因子【子どもの態度・行為への負担感】についての質問である。質問⑯から⑳までは、「よくある」「時々ある」と答えた利用者が「親子」では約30%であり、「プレイ」では約50%～60%であるのに対し、質問⑱については「親子」では47%と増える。一方「プレイ」では23%と減少し、逆転した。質問⑳についても「親子」35%、「プレイ」14%と同様な現象が見られた。これは子どもの発達過程と関係しているのではないかと考えられる。

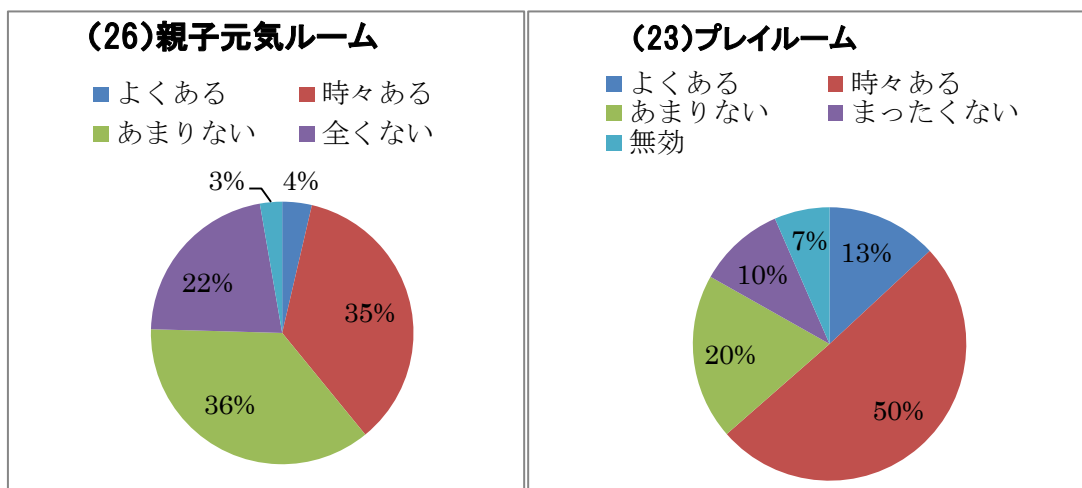
## ㉑育児のことでどうしたらよいかわからなくなる



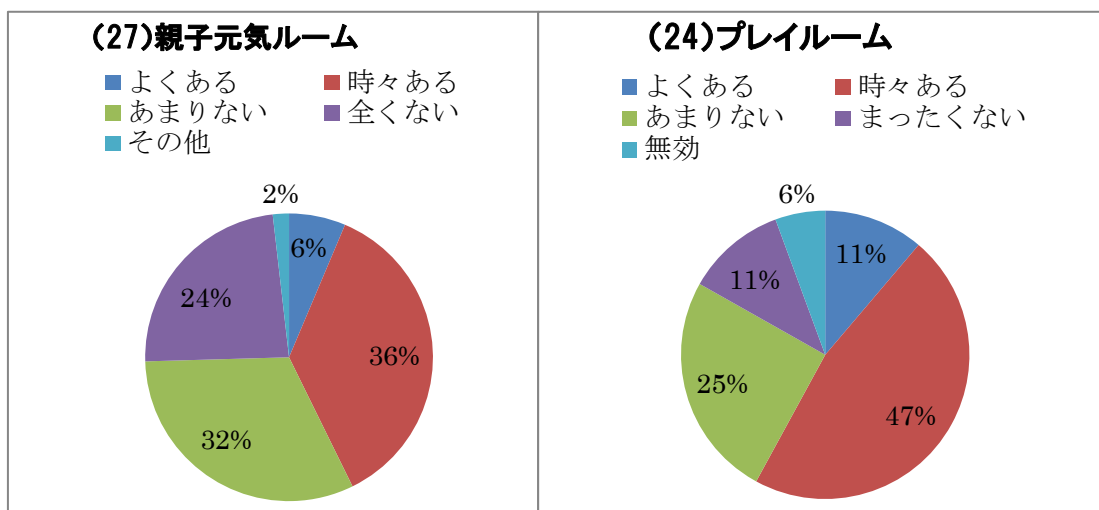
## ②子どもをうまく育てていけるか不安になる



## ③自分の育て方でよいのかどうか不安になる



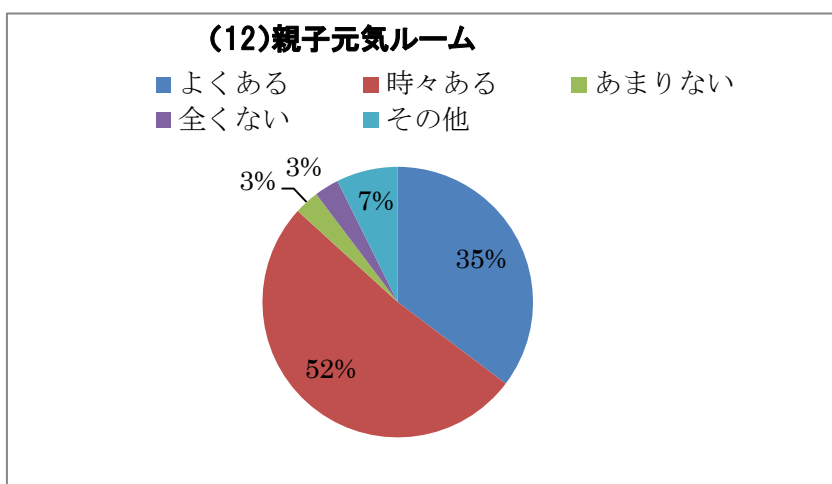
## ④子どもにうまく対応できていないと感じることがある



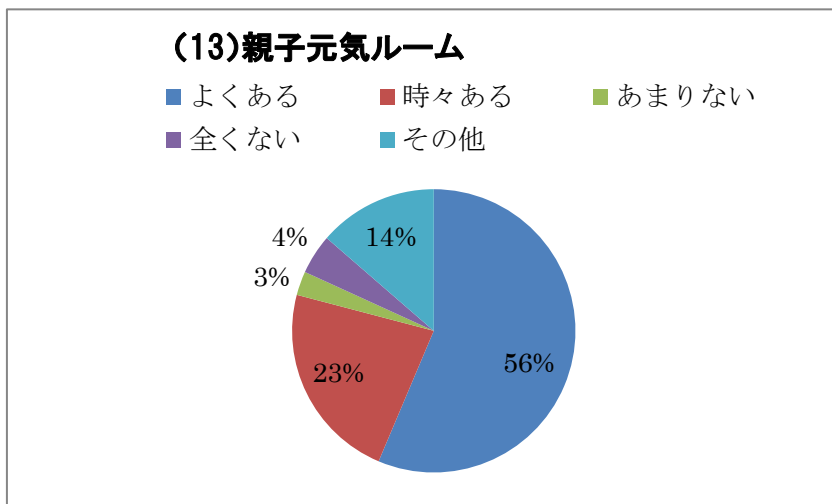
質⑳から㉔までは育児感情尺度<sup>2</sup>における因子である育児の「不安感」の下位因子【育て方への不安感】についての質問である。質問㉓、㉔は「元気」が役40%であり、「プレイ」では約60%であるのに対し、質問㉒は「親子」「プレイ」両方共に約35%、質問㉑は両方共に約50%であった。

㉕親子元気ルームの利用者のみに対する質問

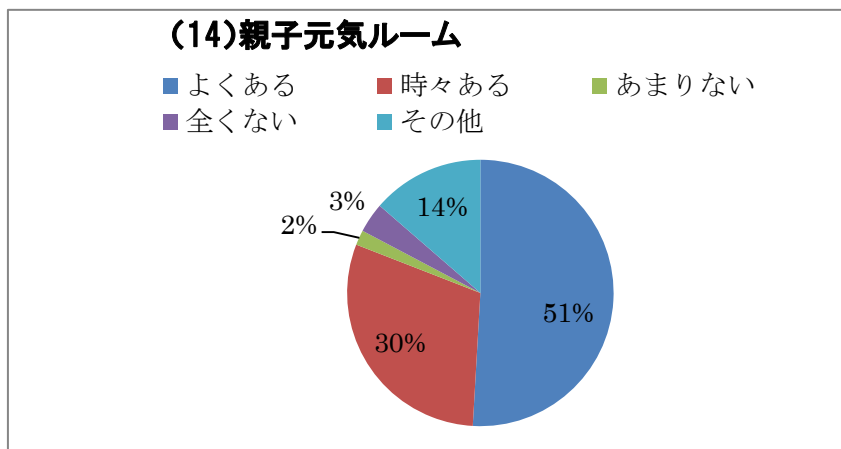
A 親子元気ルームでは誕生会・製作等行事に参加したことがある



B この様ような行事は楽しい



### C このような行事は役に立つ



「親子」で行われている誕生会、発育測定、スキンシップ遊び、製作、読み聞かせ等は 89%の利用者が参加したことがある。初めての利用者が 24%いることから考えると、利用者のほとんどが知っていると思われる。そのうち 79%の人が活動を楽しんでいると感じ、子育てに役に立つと考えていることが分かった。有効な子育て支援になっていると思われる。

## 5. 考察と課題

「こどもプラザ」設立にあたって、NPO法人前橋保育ネットワークでは以下の五つの柱を基本方針として会員の共通理解を図った。

- ①気軽にふらっと立ち寄れる場  
(小学校低学年までの子どもが親子で遊べる場)
- ②お母さんたちがホッとする場  
(子育てサークルの育成支援・様々な親子遊びを紹介して一緒に楽しむ場)
- ③気軽に育児の心配事を相談できる場  
(電話相談・相談室の設置・巡回指導員[スタッフ]の設置)
- ④子育てについて学ぶ場  
(子育て講座・子ども講座)
- ⑤保育の場  
(在宅一時預かりパイロット事業—将来的にニーズ調査等の後に行う)

この五つの視点で今回の調査結果を考察してみたい。

利用者のほとんどがリピーターであった。(初めての利用者の割合が「プレイ」で4%「親子」で24%)「元気」では約50%弱、「プレイ」では90%の利用者が毎週来場していた。ではなぜ何回も利用するのだろうか。質問②にあるように「プレイ」「親子」共にまず子どもが良く遊ぶ。知らない子どもとも関わるこ

ともできる。(質問⑨参照) 子どもたちが来場してなにで遊ぶか、誰と遊ぶか自由に選ぶこともできる。子どもたちにとってこの施設が楽しい場所であるということが大きな理由と考えられる。子どもの楽しそうに遊ぶ姿を見て、子どもたちがまた行きたいということでリピーターが増えていくのであろう。

質問①のように、子どもだけではなく多くの利用者が施設に来ることでほっとして過ごしていることがうかがえた。加えてインナー型の支援施設であり天候に関係なく来園することができる。無料で運営している事もプラスとなっているのであろう。利用者さんから帰るときには「ありがとう」という感謝の言葉も多く聞かれる。お母さんたちがホッとする場・気軽にふらっと立ち寄れる場として定着したのではないかと考える。「プレイ」では62%、「親子」では42%の利用者がここで友達と待ち合わせをしている。気軽に小さい子どもを遊ばせながら出かける場所が町中に少ないのであろう。反面友達ができた人は「親子」で15%「プレイ」で18%であり、積極的に新しい友達を作ろうとはあまりしていないようだ。しかし、15%強の利用者が新しい友人関係を広げていることは育児中の孤独な母親の役に立っているのだと考える。今後母親たちが主体的に子育てサークル等社会的に活動を広げていくまで発展していくようになるには別な形の支援が必要なのではないか。

リピーターが多くなると、スタッフが子どもの名前や特徴を覚え、子どもと信頼関係を築いていく。信頼関係ができると子どもと声を掛け合ったり、ぐずっている子どもをなだめたり、ルールを諭したりという子どもとのコミュニケーションが生まれる。次は子どもを介して、保護者とのコミュニケーションが繋がっていく。一元型ではなく循環型の育児支援ができるようになる。これには保育者の人間関係構築力が発揮されるのではないだろうか。質問⑩でスタッフの子どもとの関わり方が参考になる利用者が多かったが、育児での困ったことをさりげなく相談したりできてありがたいとの自由記述も見られた。このような子どもとスタッフと保護者の程よい循環がこの施設の雰囲気をつくりだしているように思われる。スタッフが保育士または幼稚園教諭であるということでの専門性が生かされているのではないかと考える。また、「親子」で行われている各行事も特に小さい子どもを持つ母親には手遊び一つ、童謡一つが子どもと一緒に遊ぶコミュニケーションツールとして役に立っているのであろう。気軽に育児の心配事を相談できる場・子育てについて学ぶ場の役割を果たしていると考えられる。しかし当初考えていた育児講座のような方法も含めスタッフの育児や保育、教育についての専門性をもっと活用できる新しい学びの場の構築を編み出せるとよいと考える。

子どもが生まれて外に出られるようになると「親子」にデビューし、適度な距離間の人間関係を保ちつつ、ほっとしたり、子育ての情報を得たり、自分の子ども以外の子どもを見て安心したりしながら、子どもが大きくなると「プレイ」に行き活動的な遊びを楽しみ卒業していくというような前橋に住む子育て期の母親の一つの定番になりつつあるように思われる。それが毎年延べ 20 万人の方々が利用する実績となっているのではないだろうか。

質問⑫から質問⑳までは利用者の育児不安感や育児負担感についての質問である。13 の質問のうち半数の 7 項目において、優位に育児ストレスを感じている割合が「プレイ」の利用者に多かった。子どもが大きくなるにつれ育児ストレスは増してくるようだ。特に子どもの態度・行為に対する負担感とそれに対する対応について多くの利用者がストレスを感じていることが分かった。「親子」の保護者は漠然とした子育ての圧迫感、子どもの対応で自分に時間が持たない負担感、自分の子育ての仕方でのいかという不安感を感じているが、「プレイ」の利用者は子育てで自分の生活が束縛される圧迫感とともに子どもが大きくなって自分の思うようにいかなかったことへの負担感とそのような時の自分の対応をどのようにしたら良いかという身近な具体的な不安感が強いように思われた。

育児ストレスについては点数化や他の調査等との比較等を詳しく行うことでこの施設の利用者のより詳しい育児ストレスについての分析考察が必要であると考える。

#### 【参考文献】

- 1) 幼稚園児の母親の育児感情と抑うつ 荒牧美佐子他 保育学研究 46 集 235-244 2008-12
  - 2) 児の年齢階層別に見た育児不安 間三千夫他 和歌山信愛女子大学紀要 40 集 41-48 2000-03
  - 3) 大学生の育児意識に関する研究 上田一稔他 日本教育心理学会総会発表集 48 集 481 2006-08
  - 4) 母親の育児不安と家族機能に対する感じ方の検討 川崎裕美他 小児保健研究 63 巻 6 号 2004
  - 5) 地域子育て支援拠点事業利用による母親の変化 中谷奈津子 保育学研究 52 巻 3 集 2014
-